

2015.2.6

「いよいよ財政再建に関する特命委員会始まる」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。本日は2月6日の金曜日です。

昨日の2月5日から財政再建に関する特命委員会が始まりました。この委員会は、政調会長の稲田先生が会長となり、これからアベノミクスで経済を良くすると同時に財政再建もしなければならぬという二律背反するジレンマを何とか調整する目的で始まりました。昨日から始まり、3月4月と有識者ヒアリングをして5月から6月に取りまとめをしたいということでした。私もこの委員会の委員に任命して頂きました。

昨日から始まりましたが、驚いたことに第1回目の講師が、何と元自民党幹事長をされた中川秀直先生だったことです。何故驚いたかと言いますと、私は正にデフレを作った張本人が小泉内閣であると思っており、その小泉総理を党で支えてきたのが中川先生だったからです。さらにその政策というのが上げ潮派でした。上げ潮派がどういったものかと言えば、一つは財政削減による小さな政府論です。そして、もう片方は日銀がお金を刷るべきだということです。

その一部が今黒田バズーカ砲で実現しています。しかし、もう片方の財政支出をどんどん下げ、社会保障費が毎年 1 兆円ずつ伸びることが分かっているながら、そこにキャップをかけて下ろしていくことは非常に評判が悪く、実はそれが原因で自民党政権が政権交代をしたと私は思っています。

昨日の中川先生のお話ですと、皆さん方のおかげでようやく財政再建をしてきたが、残念ながら民主党政権でそれがことごとく否定され、逆にばらまき政策、子ども手当などを行って財政が悪くなり、またデフレが進んだという言い方をされました。私は正直、そこが違うと思っていました。

それが終わり、先生の話聞くだけで質問の時間がほとんどなかったのです。私も稲田政調会長に申し上げましたが、問題は何故中川先生をお呼びしたのかということです。中川先生もお忙しい中、稲田先生に呼ばれて断ったけれども来られたと仰ってました。稲田先生曰く、上げ潮派の整理もしておきたかったということでした。それならそれで大事な話ではありますが、我々の中でもっと議論ができる時間を作って頂きたいということを私は皆さんに申し上げて参りました。

上げ潮派の整理をするということは本当に大事なことです。私はそもそも財政削減政策がデフレを作ったとずっと言い続けています。その整理が出来ていなければ、今回も財政再建のための特命委員会を作っても、結局財政出動を小さくしてしまい、その結果、またデフレになってしまうということが一番大きな問題です。そこはしっかりと我々はそうならないようにしなければならないと思っています。

その時に、一番大きな問題は何かということについて、財務省が中々良い資料を配っていました。それは日本の国民負担率の関係を示したグラフです。これを見て頂ければ分かるのですが、それぞれの国が書いてあり、国民負担率の状態は、日本が40%くらいのところにあります。しかし、対国民所得に対する福祉予算はそれなりに出ています。本来ですと、負担率がもう少し高くなると福祉の予算もバランスのとれたいわゆる45°の直線のところになります。

日本の問題点は、それなりの中福祉をしながら、負担率は低いということが一番大きな問題です。もし議論をするならば、国際的に見て福祉の予算に比べて負担率が低すぎることを議論しなければならないと思います。それを全く議論せずに、いわゆる増税なき

財政再建という路線が生み出した結果は、必要な予算に予算を付けないことです。必要な予算に予算を付けませんから社会が歪んでいきます。社会が歪むだけじゃなくて、経済自身も歪んでいきます。その結果、国民の心を打たなくなって国民から心が離れてしまって自民党が下野するという事になったのですから、二度とそういう過ちを繰り返させてはならないと思っています。

いずれに致しましても、昨日から始まったこの財政再建に関する特命委員会に私も全力で出来る限り参加して、間違った議論の方向に進まないように歯止めをかけて行きたいと思っています。

今後ともまた機会がある毎にこの委員会についても報告させて頂きたいと思います。

本日も御覧頂きありがとうございます。